

住みたい街 吉祥寺の魅力

ーなぜ住みたいと思うのかー

Want to live in town Attraction to Kichijoji
: Do you think why you want to live

海老原亜美*・山崎元也**
Tsugumi Ebihara*・Motoya Yamasaki**

The object place of this research is Musashino-shi, Tokyo Kichijoji.

What kind of image are you holding to Kichijoji?

Aren't there many people who probably have the impression that there is foppish ?

Kichijoji -- "-- I would like to live -- it waits and is ranked as the higher rank of the ranking ".

WE reports The charm of Kichijoji in this research.

Keywords: Kichijoji, Want to live in town, Compact City
吉祥寺、住みたい街、コンパクトシティ

1.はじめに

私は、以前から気になっていた吉祥寺という街について調査を行った。以前からとは、ニュースを見て初めて吉祥寺の存在を知った時のことである。

東京の住みたい街ランキングで1位になったと吉祥寺の街が取り上げられていた。当時中学生だった私は、茨城の実家に住んでおり、東京に対しても馴染みがなかった。場所も名前も知らなかったが、吉祥寺が住みたい街として人気があることを知った。

初めて吉祥寺を知ってから現在まで、テレビや雑誌にも度々特集などで店やスポットが紹介されるなど目にする機会があり、興味を持つようになった。そこで、住みたい街No.1吉祥寺の人気と魅力について探ってみた。



【写真-1】 駅北口

2. 概要

吉祥寺は東京都武蔵野市に属している。武蔵野市は、東京都のほぼ中央に位置する。東西6.4キロメートル、南北3.1キロメートル、平坦な地形にめぐまれた街は、昭和22年、特別区に隣接する郊外住宅都市としてスタートした。

武蔵野市は、施策の計画・展開にあたって、早くから市民参加を掲げ、先駆的に取り組んできた。高い市民意識に基づいて策定された長期計画(10年から12年周期)とこれを見直す調整計画は、豊かな財政力に支えられて着実に実行され、緑豊かな住宅都市と教育・福祉・健康・文化・スポーツ・情報などの生活型の産業が高度に集積して、調和した「生活核都市」として発展し、住んでみたい街としてそのイメージが定着している。

現在は、人口約13万4千人、新宿から約12キロメートル、電車で12分の至近にあり、JR中央線と京王井の頭線が通っている。23区と多摩地区を結ぶ東京の『芯』となっている。

武蔵野市は、市内を東西に貫通するJR中央線に沿って主に三

駅圏に分かれている。市の玄関として、デパートや専門店などの商業集積をもつ吉祥寺圏。三鷹駅から北側に伸びる文化・行政のゾーンの中央圏。武蔵境駅を中心に、亜細亜大学などの文教施設と、中核病院である日赤病院をもつ武蔵境圏。市では、三域の個性を生かしつつ、全体が調和したまちづくりを進めている。

【表-1】 武蔵野市の自然条件

位置	東経 139 度 34 分 10 秒、 北緯 35 度 42 分 53 秒
標高	50~60 メートル
広がり	東西 6.4 キロメートル 南北 3.1 キロメートル
地形	総体的に平坦
地質	ローム質(火山灰質)土壌
面積	10.73 平方キロメートル
平均気温	15.9 度

* 非会員・東京農業大学地域環境科学部・Tokyo University of Agriculture Faculty of Regional Environment Science

** 正会員・東京農業大学地域環境科学部・Tokyo University of Agriculture Faculty of Regional Environment Science

2-1. 吉祥寺の歴史

武蔵野市は、約 1~2 万年ほど前の先土器時代から人々が住んでいたまちのようで、井の頭池畔御殿山から石器が発掘されている。また、御殿山自然文化園内に、縄文中期の集落も発見され、古くから人々が、武蔵野の文化の基礎を築いていたのではないだろうか。

江戸時代に入ると、玉川上水が開通され、武蔵野の原野は、農地の開発が進むようになった。その後、相次ぐ江戸大火が起き、1659 年には、水道橋の吉祥寺門前町から、1662 年には、西久保城山町から避難してきた住民が武蔵野に移住した。そして吉祥寺村、西窪村、関前村、境村が誕生することとなった。

明治 22 年になると、4 つの村、飛地が合併して武蔵野村となり、甲武鉄道が開通し、境停車場が誕生し、これが武蔵野の発展する元となった。大正 12 年には、関東大震災が起き、武蔵野村にも東京市内からの移住者が増え始め、農村から近郊都市へと発展し始めた。

昭和 30 年代には、都営住宅、緑町・桜堤団地ができ、農地の宅地化も進んで、人口は 10 万人を突破した。人工増加に伴い、市民の消費は拡大し始め、商店街が活気づき、発展し始めた。昭和 41 年には、吉祥寺駅周辺の再開発事業が始まり、そして現在の商業都市武蔵野市として成立することとなり、現在に至る。

3. 調査

住みたい街ランキング調査・現地調査・ヒアリング調査を行った。

3-1. 住みたい街

毎年雑誌や不動産会社の調査で「住みたい街」や「住んで良かった街」など、独自にアンケートが行われ発表されている。表 1 は 3 社の 2011 年の結果 5 位までをまとめたものである。各社 2 位以下のランキングは異なるものの、1 位は 3 社とも吉祥寺であることが分かる。雑誌「東京ウォーカー」では、住みたい街の読者投票で 6 年連続 1 位を達成している。その支持された理由として、交通の便が良い・ショップや飲食店が充実している・自然も豊富

【表-2】住みたい街ランキング

	A 社	B 社	C 社
1	吉祥寺	吉祥寺	吉祥寺
2	下北沢	恵比寿	横浜
3	恵比寿	横浜	自由が丘
4	自由が丘	自由が丘	鎌倉
5	新宿	目黒	二子玉川

ということがあげられた。そこに 2010 年秋の「アトレ」や「コピス吉祥寺」といった大型商業施設のオープンや、個性派の専門店や飲食店の登場も後押しし、今年も堂々の第 1 位になった。結果として、バランスの良さが人気の理由としている。

3-2. 現地調査

吉祥寺駅を出発し、徒歩で 2 時間程度街歩きを行った。

まずは情報を得るために、駅構内の地図で見た街案内所に向かった。そこには、案内人が常駐しており吉祥寺に関する情報やた

くさんのパンフレットや吉祥寺独自のフリーペーパーが壁一面にあった。なんといってもその種類の豊富さに感動した。グルメガイドマップやライブスポットの情報が載った「吉祥寺 LIVE SPOT MAP」・商店街独自のガイドマップがあり、全部で 20 種類以上のパンフレットがあった。

そこでパンフレットに載っていたモデルコースを歩いてみることにした。選んだコースは“吉祥寺お買いものハイキングコース”といい、駅近くのスポットや店を巡るようなコースである。



【写真-2】元町通り

具立公
けつん
手狭工



が頭
討
わ
べ
も
所
ら

【写真-2】元町通り

付し「ハーモニック横町」(写真-4)は路地の狭い、駄目店を中心に軒を連ねていた。その数 93 店。通りからは、洋食屋やバーなど様々な種類の店があり、匂いも飛び交っていた。調べてみると、ハーモニック横町は戦後すぐから存在しており、60 年以上の歴史があるようだ。名前の由来としては、武蔵野市在住の作家、亀井勝一郎氏が昭和 37 年の市政講座で、小さなお店がぎっしり並ぶ



【写真-4】ハーモニック横町

様を「ハーモニカ」の吹き口に例えたことが広がったとのことだ。確かに、地図を見ても実際に通ってみても吹き口のように密になっている。

井の頭公園(写真-5)は、多くの人が公園に向かって歩き入場していったが、園内は人で混んでいるという印象はなかった。



【写真-5】井の頭恩賜公園

なぜかという園内はとても広々としていて、人が分散しているためだ。それぞれの場所で思い思いの時間を過ごしていた。

井の頭公園は正式には井の頭恩賜公園と言い、大正6(1917)年に日本初の郊外公園として開園した。初めて江戸に引かれた水道「神田上水」の水源であった。貴重な武蔵野の面影を残す雑木林があり、1年を通じて多くの人が散策に訪れる。

3-3. ヒアリング調査

武蔵野市観光推進機構の職員の方2人にヒアリング調査を実施した。質問内容は「ご自身で考える吉祥寺の魅力とは?」である。どちらも中年の女性方で、武蔵野市在住と不在の方である。

武蔵野市在住・女性

- ショップや施設が近い
- 気軽にショッピングできる
- 高齢者のためのイベントが多く行われている
- 街は急速に変化した
- 店の入れ替わりが激しい

武蔵野市不在・女性

- 生活に便利
- ショップの数が多く、ショッピング・グルメに満足
- ほぼ半径500m以内、移動が少なくて済む
- アートやシアター、井の頭自然文化園など文化的なことも充実
- 井の頭公園など四季・自然が身近にある

武蔵野市在住の方は、「銀座のような高級感がなく、普段着で気軽に楽しめること」と答えた。また高齢者の向けのイベントが多く行われているため、高齢者にも人気がある。街は急速に変化をしており、店の入れ替わりが激しい。

武蔵野市不在の方は「生活するのにとても便利なこと」と答えた。ショップの数が多くその種類も豊富であり、ショッピング・グルメに満足できる。駅を中心にほぼ半径500m以内に、ショップや施設があり、移動が少なくて済む。アートやシアター、井の頭自然文化園など文化的な施設も充実していて、井の頭公園など四季・自然が身近にある。

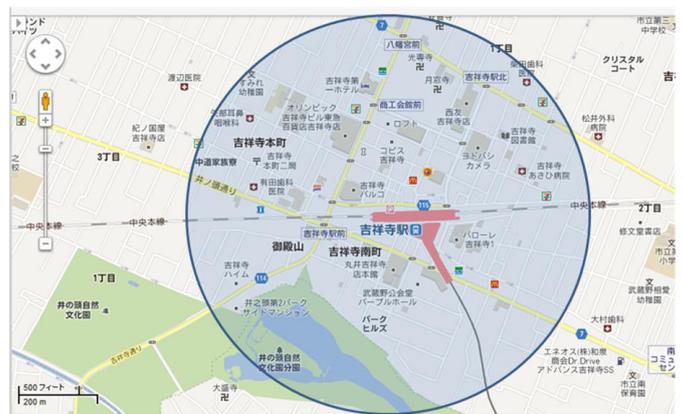
二人の話を伺って分かったことは、生活に便利であること・施設が商業・文化・自然と多種多様でそれぞれ近く、徒歩圏内にあることである。私には一つのキーワードが頭に浮かんだ。吉祥寺という街は、非常にコンパクトにまとまっている街ということで「コンパクトシティ」ではないかと。そこでコンパクトシティについて調べてみた。

4. コンパクトシティ

定義として、「徒歩による移動性を重視し、様々な機能が比較的小さなエリアに高密度に詰まっている都市形態のこと」とある。

コンパクトシティをかたちづくる要素としては、徒歩による移動性の確保、職住近接・建物の混合利用・複合土地利用といった様々な都市機能の混合化、建物の中高層化による都市の高密度化、はっきりとした都市の境界や独自性を有すること等が挙げられる。

吉祥寺の地図を用いて検証を行なった(図-1)。図-1に示す青色の円は、駅を中心に半径500メートルを表している。500メートルは、徒歩で換算するとおおよそ6~7分になる。この500メートル圏内には、吉祥寺を代表する大型デパートや商店街・井の頭公園がある。この範囲を網羅したとしても、徒歩で約1時間足らずで街をめぐることができる。つまり、短い時間で買い物から自然まで楽しめるのだ。



【図-1】検証

また500メートルのエリア外にも、武蔵野八幡宮や成蹊大学のケヤキ並木などゆっくりと自然を感じられる場所が街の中にあった(写真-6・7)。



【写真-6】 武蔵野八幡宮



【写真-7】 成蹊大学ケヤキ並木

5. まとめ

吉祥寺の魅力について次のようにまとめた。

- 多くの要素をバランスよく楽しめる
- 幅広い年齢のニーズを満たす
- 気軽さ・身近さを感じる距離

↓

それらがコンパクトに集約されている

私は「吉祥寺=コンパクトシティ」は成り立つと考える。またそのコンパクトさが住みたい街につながっていると思う。しかしただコンパクトで便利なだけかという点、そんなことはない。武蔵野の風土が生み出した歴史や文化が、しっかりと現在の街にも刻みこまれている。歴史がベースとなり、今があるからこそ「らしさ」が生まれた。便利さと吉祥寺らしさが観光客だけでなく、住んでいる人も実感しているため「住みたい街」としての人気の高いのではないだろうか。

参考文献

- 1) 武蔵野市,市のプロフィール, 日本語
<http://www.city.musashino.lg.jp/>,2011/12/10
- 2) Walker plus, 住みたい街ランキング(関東編), 日本語
http://sp.walkerplus.com/newlife/ranking_machi/tokyo.html,2011/12/21